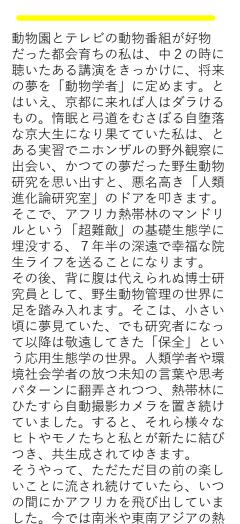
みんなのジュニア生態学講座

~高校生と研究者の交流会~

2025年3月15日(土)16:00~17:30



流れるままに保全研究



帯にまで手を広げて、地域の人々と

協力しながら「森のお肉を守る」研

究をしています。そんな私の気まま

な保全研究についてお話しします。



博士号をとって イラストレーターになった

「生き物が好き」「研究に興味があ る」ここに参加する皆さんは、こん な情熱をもつ方が多いのではないで しょうか。一方で、ゲームやスポー ツなど、趣味が多い人もいると思い ます。私は、ウミガメ類を対象とし た研究で博士号をとりましたが、イ ラストを描くことも好きでした。調 査中に見たり感じたりしたことを、 絵に残しておきたいという気持ちが 強かったのです。学生の頃は、研究 時間を犠牲にして描いていた時期も あり、「お絵かきよりも研究が先」 と注意されたこともありました。大 学院生として、研究を進め、論文を 書くことが最も重要な仕事であるこ とは言うまでもありません。そんな 時、ちょっとした転機が訪れます。 調査中、研究者以外の方々と緻密に コミュニケーションを取る必要が あったのですが、イラストを使って 説明するとより早く正確に理解して もらえることに気がついたのです。 そこから私は、「コミュニケーショ ンや問題解決の手段としてのイラス ト」を意識するようになりました。 後に、研究内容を広く伝えるために 苦労している研究者が非常に多いこ とを知りました。博士号取得し研究 員として働いた後、今はイラストを 通じて、さまざま視点から科学をど う伝えるかを考える仕事をしていま す。この講演では、やりたいことを 一つに絞れずに悩んでいる方々の心 が軽くなるようなお話ができればと

思います。



「いきものオタク」は 研究者に向いているか?

小学生のころ、テンナンショウと いう植物に魅入られてしまいました。 ずっとテンナンショウとふれあい続 けるには研究者になるしかない、そ んな一途な思い込みから博士課程へ と進み、度重なる出会いと幸運に恵 まれて、今の職にありつきました。 何とも嬉しいことに、調べれば調べ るほどテンナンショウの繁殖様式は 奥深く、解くべきテーマが尽きる気 配はありません。では研究者は誰も が○○オタクなのかというと、全く そんなことはありません。私の身の 回りには、生き物そのものよりも、 それらが引き起こす現象や、その背 後にある理論に魅せられた研究者が 大勢います。むしろ生粋のオタクら しき研究者は(存在感はさておき) 数のうえでは少数派かも知れません。 現時点で非オタクな研究者志望の方 にとっては朗報でしょうか。じゃあ オタクな自分は研究者に向いていな いのか…と落胆する必要もありませ ん。ただし、生き物を誰よりも愛好 する熱意と、研究をコツコツ継続す る根気は必ずしも一致しません。研 究者を目指し始める前に「ただ○○ が好きなのか、研究が好きなのか、 それとも両方好きなのか」と自問自 答してみることはとても重要です。 そうして一歩踏み出した皆さんには、 ○○オタクだからこそ○○だけに興 味を閉じず、無限に広がる研究分野 間の繋がりを楽しんでほしいと思い ます。